

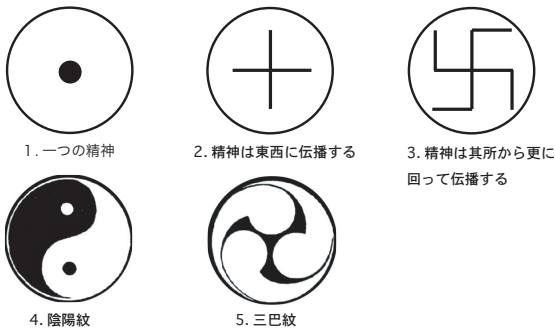
# 日本を北上したバルカリアンー日本と世界を結ぶ古代鉄文化の軌跡

## 1. カバルディノー - バルカリア共和国とカラチャイーバルカル語

コーカサス山脈の最高峰エルブルースの周囲には、少数民族国家が数多く存在している。その中の〈カラチャイーチェルケシア〉と〈カバルディノーバルカリア〉という二つの国は、嘗ては一つの国であった。それゆえに共通言語のカラチャイーバルカル語を使う。この言語はテュルク語から分離独立したものだが、500以上の言葉が日本語に共通しているという研究があり、私とロシア人の協力を得て翻訳致しました。日本語が何故含んでいるのか、という理由を調べる上で注目すべき点は、バルカリアンはアーリヤンの子孫であるという点である。例えば、ガサン（日本では月山）はアーリヤンの男性神であるが、日本に伝わっている〈ヒミキ〉はバルカリアンの女性神である（ナルチックの研究者の説）。刀（カタナ）という言葉だけを取り上げて比較すると、バルカル語では〈カタル〉、インドのアーリヤンが話すサンスクリット語では〈カタル、カトリ〉、朝鮮語では〈カル〉、日本語〈カタナ〉である。いずれも一音（片）で発音すれば、その共通性が理解できるが、〈カ・タ・ナ〉と三音で発音すると理解できない。

## 2. バルカリアンのシンボル

「アーリヤンが何故各地に移動したか」を理解する上で参考になるのがバルカリアンのシンボルと伝承である。これによって彼らが何かを伝えようとしていたことが伺えます。



カフカス考古学研究所の説明によると、図①の中央の点是一个の精神を表現し、②の十字は一つの精神が東西南北に伝わることを意味し、③の卍は、更に周囲に伝わることを意味しているそうです。④の陰陽は万物の生成化育を説明し、⑤の三つ巴紋は、他民族との友好を示しているのではないかと考えます。日本人には、いずれも親しい紋様です。

一つの精神とはどのような精神なのでしょうか。日本では太陽に置き換えられて国旗になっています（私見）が、



エムシ刀（妻沼浩二コレクション）

自然界に於ける神の意思を感じ取れる超能力といったものかもしれません。それを「神の目」「神の渦巻き」「第三の目」「心眼」「天之眼一個神」などといって敬っています。例えば、北海道のエムシ（アイヌ）の縫取衣には神の目が入っていますし、昔の刀にも入っています。換言すると「精神の集中法」と言ってもよいと思います。⑤は、神社紋として使われていますし、北海道のエムシの刀剣（図参照）にも見られます。

## 3. カバルディニヤンの頭骨から推定される移動経路

カラチャイ／バルカル語の語源であるテュルク語を話す民族をテュルキーと呼ぶが、彼らは草原地帯を通過してシベリアのアルタイ地方に移動し、ヤクーツではテュルク語が今でも使われている。アルタイ東部のトゥバ共和国には、5世紀頃に「突厥」という国ができたが、これがテュルキーを意味する漢字である。しかし、それ以前に彼らはアメリカ大陸に移動し、アメリカインディアンとなったので、DND鑑定によりロスアンゼルスインディアンとアルタイのテュルキーが合同で祭典を行っている。

アルタイのテュルキーは、コーカサス方面から移動した民族なので、家族が死ぬとその墓石は順繰りに一列に並べられ、コーカサス方向の南西に向かって埋葬されました。テュルキーは蒙古軍タタールの襲撃が多いので、代わりに刀剣を作って命乞いをしましたが、一年後には壊れるように作ったそうです。タタールの技術や武器は日本に伝わって、「タタラ」と呼ばれるいろいろな代名詞となっています。

### (1) カフカスからエジプト、スペインへの軌跡

コーカサスのナルチックの人々は、「カバルディニアンは300年掛けてエジプトに移動した」と伝承しています。エジプトのファラオは、子供の頃から金の冠によって頭骨が後方に長く伸びている事が明らかにされていますが、これはカバルディニアンの王家の伝統の影響でしょう。エジプトに移動したファラオは、数代後に他民族の迫害を受けて、ポルトガル、スペインに移動していった。その道筋には、全てアラブ系のアル、エルが付く地名が付けられている。エジプトは、アフリカを経由せずに、インド洋に出る運河の入り口なので、他国から攻撃をうけた。ファラオはスペインに移動し、イベリアンと呼ばれる民となった。イベリアンはポルトガルとスペイン人の祖先である。

## (2) 北米、南米への移動

アメリカに移動した民族は多い。カバルディニアンやバルカリアンは南米にナスカ文明を築いたが、それ以前に北米にも多くのナスカ文明が築かれた。ナスカの王の頭骨も同様に長いことが、発掘調査で明らかにされています。

## (3) インドを経由した韓国(伽耶)、日本への経路

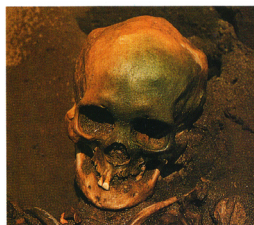
インドから船で韓国の済州島や釜山に移入したアーリヤンの頭骨も長い(写真参照)。彼らは、北上して伽耶王国を築くが、この「カヤ」という言葉は、カラチャイ・バルカル語では「山」を意味している。「山」は当然のことながら鉾山のことである。伽耶は韓国の大鉾山であるが、この伽耶王国は2~3世紀頃から



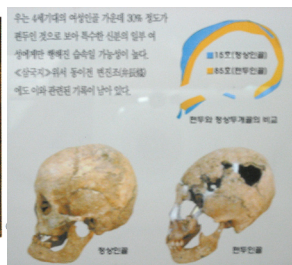
カバルディニアンの頭骨



韓国人の頭骨



島根県八束郡鹿島町古浦砂丘遺跡出土青銅鏡の跡が残る男性頭骨



頭骨の説明(韓国の博物館)

始まり、5つの王国に発展していったが、5世紀頃に衰退し、6世紀には滅亡しました。それは、この鉾山の利権を狙った高句麗の迫害が大きな理由です。しかし、新羅が朝鮮を統一し

ました。ですから5世紀頃から、アーリヤンの子孫である伽耶民族が大量に日本に逃げ込んで来たと思います。彼らの影響が現れているのが古墳文化だと思います。弥生時代の渡来ルートとは異なっていると思います。

高句麗は、アーリヤンの子孫スキタイの末裔であると韓国の歴史に詳しい人は述べていますので、現在の北朝鮮でも南の韓国でも、「アーリラン」という歌が歌われます。「アーリラン」はアーリヤンの意味と解釈して間違いないでしょう。新羅は元々農耕民族でしたが、蒙古の影響を強く受けていると思います。(私はまだ百濟の調査をしておりません。)

韓国から日本へ渡る場合、済州島を通ることが当然考えられますが、この島で2000年前の遺跡が発掘されていますが、発見者は、赤い丸い石が頭の側にあった、と説明してくれました。頭骨を後ろに伸ばす青銅鏡(光り輝いていたはずです)の付いた冠をかむっていたと推定されます。

## (4) 済州島の黒窯

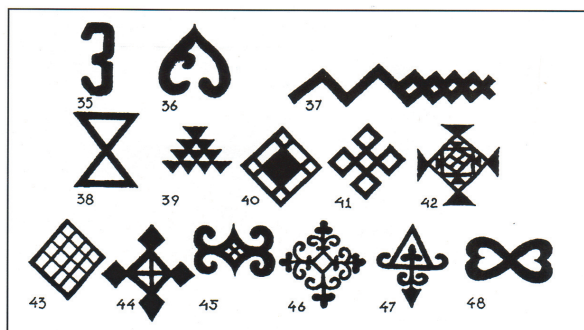
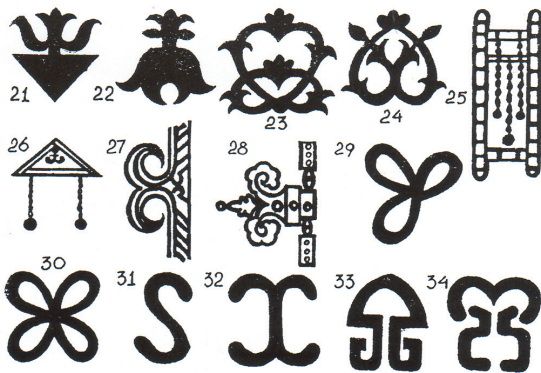
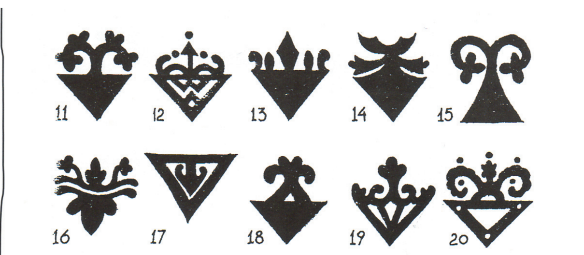
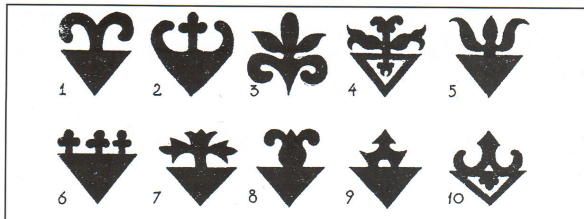


済州島には1500年前から伝わる黒窯と呼ばれる製陶窯があります。この窯元は現在韓国の人間国宝になってます。焼き物の特徴は、日本刀と同じように粘土を叩いて伸ばし、折り返して層を作り、釉薬を使わずに石窯で焼き上げることです。日本刀との関連性が伺われて大変興味深いわけです。出来上がった物をガヒナ製品と呼びます。焼き物をしている姜さんの話しでは、済州島の伝統的な髪は、エジプトのツタンカーメンと同様に、左右に二つ長く垂らしてから更に両方を結んでいるそうです(写真参照)。

済州島では、お父さんの事を「アポン」といい、バルカル語の「アパ」(お父さん)、「アポン」(お爺さん)と似ています。ちなみにエジプトでもお父さんは「Ap」で同様です。しかし、ソウルでは「アボジ」で違っているのです。

#### 4. バルカル語が一部使われていた世界最古の「金属と石の印及び象形文字」(48種)

ロシア科学アカデミーのミハイル・ザリハノフ研究員から、2008年6月彼の著書「Dom Moi Elbrus」を進呈して頂きました。この中で、彼が強調したい事は世界最古の金属と石(宝石、珊瑚など)の印及び象形文字の呼称が、バルカル語で書かれていた事です。私はロシア人の協力で英語訳してもらい、そこから日本語訳をしてみました。日本



1. Акъкъалай - aluminium アルミニウム
2. Алтын - gold 金
3. Сырма алтын - dark red gold 濃赤の金
4. Оталтын - high quality gold 上品質の金
5. Акъалтын - platinum プラチナ
6. Асма таш - amulet stone to prevent scarlet fever (wear on the neck) 深紅の護符の宝石
7. Ачыуташ - alum 明礬 (カリ明礬)
8. Багыр - red copper 赤銅
9. Болат - steel 鋼
11. Жез - yellow copper 黄銅
12. Инжи - pearls パール
13. Инжи бюртюк - pearl パール
14. Инжи минчакъла - string of beads ビーズの紐
15. Кекташ - copper sulfate
16. Кукурт - sulfur 硫黄
17. Кюмюш - silver 銀
18. Къораъшин - lead 鉛
19. Сырма кюмюш - nielloed silver
20. Маржан - coral 珊瑚
21. Маржан минчакъ - coral necklace 珊瑚の首飾り
22. Накъут - brilliant, diamond, ruby 輝くダイヤモンド、ルビー
23. Наршан - metal 金属
24. Феруза - turquoise トルコ石
25. Феруза таш - turquoise stone トルコ石
26. Темир - iron 鉄
27. Турч - cast iron 鑄鉄
28. Тутургъ - tin 錫
29. Чъга - china (from which a cups are made) 支那 (焼き物)
30. Къуукъ минчакъ - Bead, which is sew to blanket on a cradle to facilitate the urination of the child ビーズ
31. Къуукъ таш - amber 琥珀
32. Жаухар - crystal クリスタル (水晶)
33. Жашил зумрут - emerald エメラルド
34. Налмас - diamond ダイヤモンド
35. Маршاپ (сарынаршاپ) - brass
36. Тютюй - zinc
37. Къаргъатуз - mica 雲母
38. Верютемир - Wolframium タングステン
39. Къызыл къут - ruby ルビー
40. Дюрболат - chrome クロム
41. Якут - ruby ルビー
42. Акъ-доммакъ - molybdenum モリブデン
43. Къойташ - boulder
44. Къызыл таш - minium, red lead 赤鉛
45. Акъташ - quartz クウオーツ
46. Мермер - marble マーブル
47. Хыршыташ - whetstone; grindstone 磨いた石

バルカル語で書かれていた部分

9. Блатт (ダマスкас鋼) で武器を作成した
38. タングステン
42. モリブデン

での発表については、彼の了解を得ました。この年代は定かではありませんが、粘土版が使われた時代だそうです。

## 5. バルカリアン刀 (ダマスカス刀)

### (1) 各種のバルカリアン刀



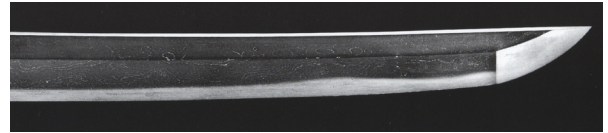
バルカリアンのダマスカス刀

バルカリアン刀には直刀、弯刀、小鳥丸造り、両刃の剣などがある。長さは子供から稽古を始めるので、体に合わせて作る。先ず、バルカリアン(ダマスカス)刀を紹介しておきたい。ダマスカス刀には二種類あり、第1種は炭素鋼の刀剣であり、第1種は炭素鋼の外にニッケル(1%)鋼、クロム(1%)鋼、モリブデン(1%)鋼を高炭素鋼、低炭素鋼と

合わせ鍛えする刀剣である。いずれも形を作ってから特殊な熱処理をしている。それは現代的な表現で言えばオーステナイト化することであるが、もっと高温での熱処理については不明である。

### (2) ダマスカス刀に見られる第三の眼(小空目)と作刀方法

ダマスカス刀は、特殊な熱処理が施された刀剣である。この地鉄には、日本刀のように板目、杓目、柾目の作り方があり、特に注目されるのが杓目である(右写真)。この意味を推察するに、シャマニズムに於ける第三の目(下写真)、エムシ(アイヌ)の縫取衣に見られる「神の目」「神の渦巻」(下右写真)、武道でいう所の「心眼」を入れることが重視されたようだ。杓目は、



宝珠の杓目

本当は渦巻であって単なる杓目ではない。シャマニズムの第三の目は、額から物を見る事を行い、武道の心眼とほぼ同一である。日本の刀匠が信仰している「天之眼一個神」は、この刀身に見られる渦巻の事ではないだろうか。北海道のエムシアツ(縫取衣)は、バルカリアンの杓目と共通している。



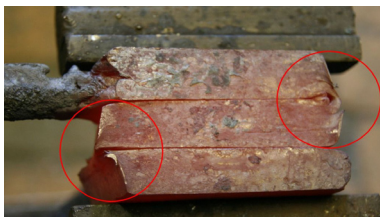
シャマンの第三の目



エムシアツ(神の渦巻、神の目)

### 6. 日本の古い刀に見られる神の眼

日本刀の古い刀には、小さな杓目が一つであるものがある。多分これは神の渦巻を表現するものであったと考えられる。現在、月山刀が杓目をだすようだが、一つではなく数個並べて出しているものが多い。現代のダマスカス刀も幾つかの杓目を出している。杓目の出し方は、折り返しにあり、写真の如く折り返しの切り口を直角に切らずに斜めに切ってだすのである。この写真は、昨年6月、私がダマスカス刀鍛冶ハムザット・バチエフ刀匠から直接教えて戴いた時に撮影したものである。



杓目(神の渦巻、神の目)を出す折り返し方法。

### 7. 日本への経路と推定年代

#### 代

日本に於けるバルカリアンの影響についての推定は今漠然としているが、弥生時代、古墳時代が最も顕著に現れていると思われる。バルカリアンや朝鮮半島の刀剣と日本の刀剣を単純に比較することから始めて見たい。

#### (1) 藤ノ木古墳出土飾り大刀(推定6世紀)とバルカリ



バルカリアン刀



藤ノ木古墳出土飾り大刀・剣・円頭大刀

## アン刀(七宝)

バルカリアン刀には全く同一の物はない。全てが一つ一つ異なっている。写真の右は藤の木古墳出土刀を再現した物で、左はバルカリアン刀である。両者には、色彩が施された所謂“飾り”の共通性が感じられる。

### (2) ハザール刀と桓武天皇伝来小烏丸との比較(7-10世紀)

カバルディノ・バルカリア国がハザール国と接して、バルカリアンの刀剣作成技術の影響が見られるの



ロシア・歴史博物館(モスクワ)展示ハザール期の大刀



桓武天皇伝来の小烏丸

がハザール期(7~11世紀)の刀剣である。両者の刀剣の特徴は、鋒諸刃造りであるが、我が国桓武天皇期伝来の小烏丸造り太刀と共通性が見られる。

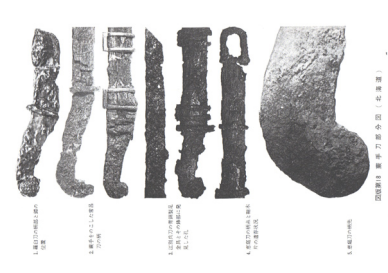
### (3) カンカン2遺跡出土刀と正倉院御物(直刀)



渡辺惟平作カンカン2遺跡出土刀再現

北海道平取の沙流川流域のカンカン2遺跡出土刀再現品は、正倉院御物と良く似ている。本州から交易によって持ち込まれた物であろうと言われているが、最近、近くの沢から製錬の羽口が見つかったので、アイヌ(エムシ)が製鉄していたことはほぼ間違いないであろう。

### (4) 蕨手刀(日本と韓国)



北海道の蕨手刀の柄



東北部/北海道で出土する蕨手刀は、その柄が棟寄りに反っていて、蒙古刀などと比較しても我が国独特の感じがする。しかし、これに長柄を付けると韓国の薙刀(名称不詳)と共通しているのである。従って、外来の物と考えられなくもない。

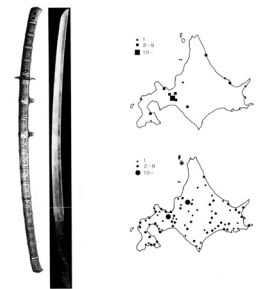
### (5) バルカリアン刀、コザック刀、エムシ刀の比較(13世紀以降)

バルカリアンがコザックの為に作った刀剣は、柄の曲がりの角度が少し異なっているが、どちらもダマスカス刀である。形は新刀期の日本刀と酷似している。



バルカリアン刀とコザック刀柄部

コザックが台頭したのは13世紀頃で、現在のウクライナを建国した。北海道出土刀は形が良く似ているところから、13世紀以降に作られた可能性が高い。佐藤矩康氏が研究発表した論文論が掲載された北海道出土の「浜もの」と呼ばれるエムシ刀の写真を見たバルカリアン(カフカス考古学研究所研究員)は、これは「バルカリアンの物だ」と叫んだ。



『新刀研究』第7号p.24より抜粋  
図2 「産物/仕出し物」といわれる自國産刀(刀) 図1 出土刀(上)と東刀(下)の出土刀の分布

は、これは「バルカリアンの物だ」と叫んだ。

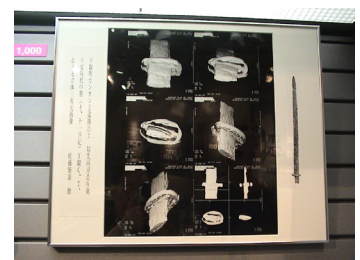
### (6) バルカル語日本地名と刀剣用語

バルカリアンが指摘した日本の地名と刀剣用語:

奈良: バルカリアンを指す古い呼称

浅野: 王家の意味

秋田: 白い犬。



津軽：行きなさい、行ってらっしゃい。  
 国後：バルカリアンが住む所、沈む太陽にさようなら。  
 びらとり：石臼、馬、バルカリアン居住地  
 ハバキ：管、チューブ

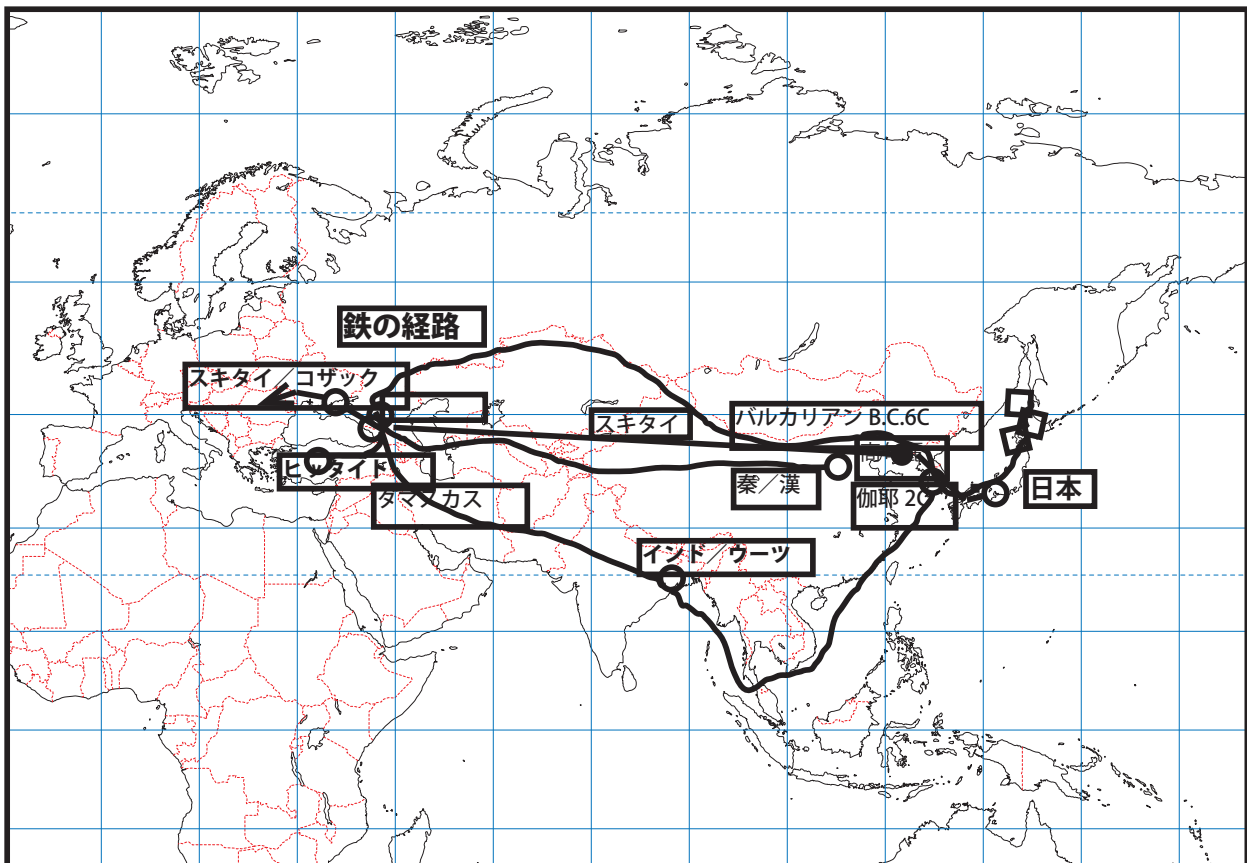
## 8. エムシ/アイヌとバルカリアン

### (1) エムシ/アイヌはバルカリアンか

DNA も調べずにこのような事を申し上げるのは不謹慎かもしれないが、私の今までの調査で感じる事は、「北海道のエムシ（アイヌ）は朝鮮半島を経て日本を北上したバルカリアンであろう」という結論である。彼らが日本に移動した時期を推定するには、もっと調査が必要である。



左：バルカリアンのハムザット・パチエフ刀匠。  
 右：白老アイヌの酋長とスペインのペドロ氏



想定されるバルカリアン（アーリヤン）の移動と鉄の経路